

第 23 回がん看護学会学術集会

<開催日程> 2009年2月7日(土)～8日(日)

<会 場> 沖縄コンベンションセンター

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業」Orange Balloon Project

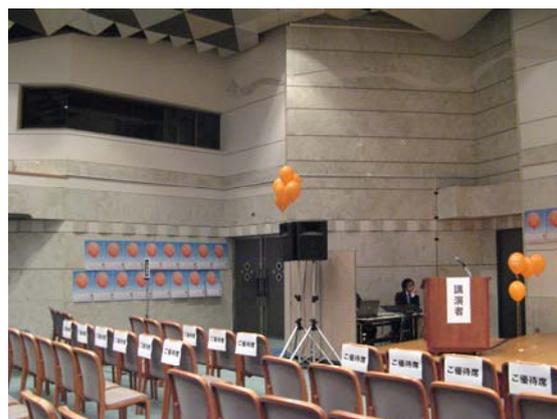
- ・ブース出展、学会参加者への普及啓発活動
- ・市民公開講座「国民の視点に立ったがん医療・がん看護を考える」実施
(7日(土)18:00～19:30)、一般市民への普及啓発、アンケート調査実施

来客者総数：一般参加 142名、アンケート回収数：139名

=ブース出展の様子=



=市民公開講座会場の様子=



第 23 回日本がん看護学会学術集会・市民公開講座開催報告

「国民の視点に立ったがん医療・がん看護を考える」をテーマに、第 23 回日本がん看護学会学術集会・市民公開講座が、2009 年 2 月 7 日(土)に沖縄コンベンションセンターにて開催され、沖縄県民と日本がん看護学会員を含む 142 名の方々の参加を得た。

本公開講座では、国立がんセンターの名誉総長・日本対がん協会会長の垣添忠生氏と琉球新報記者でがん体験者でもある志良堂仁氏による講演と、二人の講師と日本がん看護学会佐藤禮子理事長による鼎談を行った。講演では、垣添忠生氏は「国民の視点に立ったがん医療・緩和ケア」をテーマに、①わが国のがん医療、②わが国の緩和ケア、③わが国のがん対策の 3 つの視点から現状について説明され、国民が主体となった“がん医療”のうねりを起こしていくための方向性について提言された。また、志良堂氏は「がん患者の立場から見たがん医療・緩和ケア」をテーマに、ご自身のがん告知、手術療法や化学療法のご体験、自宅療養中の抑うつ症状出現時の苦悩、生きる希望を見出したきっかけを語られ、最後に医療者への要望について話された。鼎談では、志良堂氏の「がん医療を担う医師がどのように変わってきたか」という質問を皮切りに、垣添氏や佐藤氏が医師・看護師がどのような役割を担っていく必要があるのかについて話され、最後に志良堂氏が患者や家族が医療者へのお任せではなく、自らの考えや状況を医療者に伝えていく責任があると話された。市民の方々は、講演や鼎談での話に真剣に聞き入り、時折、大きくうなずく様子も見受けられた。最後にオレンジブループロジェクト代表の内布敦子氏より緩和ケアに関する考え方についての説明がされ、市民公開講座を終了した。





第23回日本がん看護学会学術集会 市民公開講座

～ 国民の視点に立ったがん医療・がん看護を考える ～

2009.2.7(土) 18:00～19:30
沖縄コンベンションセンター
第2会場 会議場 A1

入場無料

— プログラム —

1. 国民の視点に立ったがん医療・緩和ケア

講演者：垣添 忠生
日本対がん協会会長・聖路加看護大学特任教授

座長：佐藤 禮子
日本がん看護学会理事長・兵庫医療大学副学長

2. がん患者の立場からみたがん医療・緩和ケア

講演者：志良堂 仁 琉球新報記者

座長：佐藤 禮子
日本がん看護学会理事長・兵庫医療大学副学長

3. 鼎談

登壇者：垣添 忠生 日本対がん協会会長
志良堂 仁 琉球新報記者
佐藤 禮子 日本がん看護学会理事長

司会：鈴木 志津枝 神戸市看護大学教授

4. オレンジバルーンプロジェクトの紹介

内布 敦子
兵庫県立大学看護学部教授・日本緩和医療学会理事

【主催】日本がん看護学会
【共催】日本緩和医療学会
【協賛】がん性疼痛緩和推進コンソーシアム

お問い合わせ先

株沖繩コングレ内 市民公開講座事務局
TEL: 098-869-4220
e-mail: jscn23@okicongre.jp

おぼえてください『緩和ケア』

<http://www.kanwacare.net>